



米軍基地はいらない!!

——宜野湾市・名護市を訪問 両市長と懇談

超党派の議員で構成する「北区議会・憲法9条を守る会」のメンバー10人（共産5、民主1、社民2、あすか1、新社会1）は4月16日から18日までの3日間、米軍普天間基地問題で揺れる沖縄を視察し、米軍基地の実態などを調査しました。（のの山けん）

初日の16日は、普天間基地のある宜野湾市、代替基地の建設予定地とされてきた名護市を訪問しました。

普天間基地 代替基地なき返還を

普天間基地は、密集市街地の中心に広大な敷地を占有しており、住民はまさに危険と隣り合わせで暮らしています。

普天間市役所に伊波洋一市長を訪ねました。市長は「普天間基地は1950年代に、米軍が銃剣とブルドーザーで住民を追い出して建設したものだ。返還するのが当然です。その際、代替基地をつくる必要はありません。すでに8千人の部隊がグアムに移ることになっており、現地ではすでに新基地の建設も始まっています。

ます。マスコミはもつとこの事実を書くべきだ。来るべき4・25県民大会を大きく成功させたい」とのべました。

このあと一行は、基地を一望できる嘉数高台から、普天間基地を視察しました。

美しい名護の海に 新基地はつくらせない

名護市辺野古の海はエメラルドグリーン。その美しい沖

合にV字型滑走路をもつ代替基地をつくらうという計画は、住民の強い怒りと抗議の中で阻まれていきます。

名護市役所を訪ね、この1月に「代替基地建設反対」を公約に掲げて当選した稲嶺進市長と懇談しました。

市長は「みなさんの応援で当選することができ、さっそく首相にも私の公約を伝えました。これまでの経緯から、名護市議会でも単純に『基地建設反対』でまとまらない状況もあります。みなさんの支援を後ろ盾に、信念を守り抜く決意です」とのべました。

（次号に続く）

熱く連帯を



伊波洋一・宜野湾市長と



稲嶺進・名護市長と